

# 平成 29 年第 2 回定例会 9 月定期議会 教育民生常任委員会調査報告書

## ○委員会報告（6月6日）…………… -3-

- 所管事務調査
1. 登米市民病院の給食業務について
  2. 平成 29 年登米市教育基本方針について
  3. その他

## ○委員会報告（6月8日）…………… -7-

- 所管事務調査
1. 6 月定期議会中における調査事項について

## ○委員会報告（6月28日）…………… -8-

- 所管事務調査
1. 6 月定期議会所管議案及び補正予算について<教育委員会>
  2. 就学援助の拡充と運用の見直しを求める陳情について

## ○委員会報告（6月29日）…………… -10-

- 所管事務調査
1. 6 月定期議会所管議案及び補正予算について<医療局>
  2. 平成 29 年度主要事業調査について<医療局>
  3. 6 月定期議会所管議案及び補正予算について  
<総務部・市民生活部・建設部>
  4. 平成 29 年度主要事業調査について  
<総務部・市民生活部・建設部>

## ○委員会報告（7月4日）…………… -14-

- 現地調査
- 【教育委員会】
- ① パークゴルフ場建設予定地
  - ② 長沼ボート場クラブハウス建設予定地
- 【市民生活部】
- ③ (仮称)登米こども園 建設予定地
  - ④ (仮称)東佐沼こども園建設予定地
  - ⑤ 迫児童館建設予定地
  - ⑥ (仮称)佐沼こども園建設予定地
- 【医療局】
- ⑦ 登米市民病院

○委員会報告（8月18日）…………… -22-

所管事務調査

1. 請願の件について<教育委員会>
2. いじめ防止対策について<教育委員会>
3. 登米市民病院の非常用発電機の現状と課題について  
～ 災害時の対応は大丈夫か ～

平成29年10月2日  
教育民生常任委員会

## 教育民生常任委員会報告書（要点記録）

1. 期 間 平成29年 6月 6日（火） 午前10時00分～午後2時38分
2. 場 所 登米市役所迫庁舎 第1委員会室
3. 事 件

### 【医療局】

- （1） 登米市民病院の給食業務について

### 【教育委員会】

- （2） 平成29年登米市教育基本方針について
- （3） その他

4. 参 加 者 委員長 八木 しみ子、副委員長 工藤 淳子、  
委 員 岩淵 正弘、佐藤 千賀子、伊藤 吉浩、中澤 宏、沼倉 利光  
(欠 席) 日下 俊、浅田 修

(医療局) 病院事業管理者 大内 憲明、

医療局次長兼経営管理部長 大森 國弘、

(経営管理部) 次長兼登米市民病院事務局長 千葉 勝範

企画課長兼登米市民病院事務局次長 阿部 桂一

医事課長兼登米市民病院事務局次長 照井 正樹

総務課副参事兼課長補佐 武田 康博

(教育委員会) 教育長 佐藤信男、部長 大柳 晃、次長兼教育総務課長 佐藤 豊、

学校教育管理監 伊藤 浩、教育企画室室長 岩淵 公一、

学校教育課課長 三浦 徳美、生涯学習課課長 佐藤 嘉浩、

文化財文化振興室室長 片岡 鉄郎 教育総務課課長補佐 小野寺 和伸

(事務局) 主査 三浦 正弘

5. 概 要 (別紙のとおり)

6. 所 見 (別紙のとおり)

(別紙)

## (1) 登米市民病院の給食業務について

### ○概要

市民病院の給食は、平成 29 年 3 月 31 日まで㈱シダックスと委託契約をし、院内調理により提供していた。委託契約期間満了に伴い、平成 29 年度の委託契約締結のため、指名競争入札を行ったが、5 社中 4 社が入札辞退、残り 1 社も予定価格を大幅に上回り、入札不調となった。その後、不落随契により業務委託契約を行うため、現契約の㈱シダックスと業務延長の交渉を行ったが、「給食業務に携わる人材確保が困難」とのことで、契約交渉も破談となった。このことから、平成 29 年 4 月 1 日より院外調理方式で給食提供をしてもらうため、「(有)みやぎ保健企画 セントラルキッチン」と業務委託契約を行った。

### ○所見

現在セントラルキッチンから給食を提供してもらうためには、3～4 日前に事前に発注しなければいけないため、緊急入院時の提供などが出来ない状況であり、さらには病院の特別食、特にアレルギー食に対し、安全体制が取れないため、入院の受入を制限している状況であった。

今後は、病院食は治療のための食事と考え、安定的に安心して提供できるように、契約金額の積算方法等を見直し、平成 30 年度からの全面委託を目指すとのことであった。

しかし、その他にも、給食調理室に行くには、霊安室の前を通ることや食器の洗浄室などは、高温多湿になっている状況であり、労働環境や施設環境の早急な改善に努められたい。

## (2) 平成29年度登米市教育基本方針について

### ○概要

平成29年度の登米市教育基本方針及び予定されている主要事業等について調査を行った。

#### 【平成29年度 登米市教育基本方針】

市内各小中学校での年間教育目標を作成するにあたり、その前提となる教育委員会の基本計画である。

#### 《学校教育》

- ◆ 確かな学力の向上と豊かな社会性の育成
- ◆ 学校と家庭・地域が連携した、地域とともにある学校づくりの推進

#### 《社会教育》

- ◆ 心豊かな生活に向けた生涯学習の充実
- ◆ 地域に密着したスポーツ活動の推進
- ◆ 文化が息づくまちの創造

### 平成29年度 主要事業について

#### 学校教育関係

- ・ 幼保再編推進事業  
認定こども園化に向けて幼稚園と保育園の整備再編に伴う交流活動
- ・ 学力向上対策事業  
学力対策検討委員会を設置し、教職員の指導力を向上
- ・ 子どもの心のケアハウス設置事業  
不登校生徒児童の支援活動や相談活動の実施
- ・ コミュニティ・スクール推進事業  
学校と家庭・地域が連携した、地域とともにある学校づくりを目指し、学校運営協議会や学校評議員の設置、さらには、学校支援ボランティアの登録推進などを進め、平成31年度までに全小中学校で実施予定

#### 社会教育関係

- ・ 南東北インターハイボート競技大会の実施  
平成29年度インターハイのボート競技会場となったため、大会に向けた実行委員会の運営及び大会開催・運営を行う。
- ・ 長沼ボート場クラブハウス整備事業  
ボート競技の全国規模の大会や合宿などの誘致に向けた受入基盤を強化するため、宿泊機能を有した拠点施設のクラブハウス整備事業
- ・ パークゴルフ場整備事業  
6コース54ホールのパークゴルフ協会認定パークゴルフ場を石越高森公園内に整備
- ・ 登米懐古館整備事業  
登米町寺池地内に伊達文化の展示紹介と歴史資料の保管する施設、さらには、近隣建物との観光施設として誘客するための施設を整備

## ○ 所 見

学校教育においては、確かな学力の向上と豊かな社会性の育成をめざし、人づくり、学校づくりをどう推進していくかが求められている。

さらに、主要事業において、今年から「子どもの心のケアハウス設置事業」が導入され、不登校児童生徒の学習及び再登校への支援活動や相談活動が実施されているが、今後はさらに一人ひとりの適切な指導や支援を行う体制づくりを検討されたい。

## 教育民生常任委員会報告書（要点記録）

1. 期 間 平成29年 6月 8日（木） 午前11時25分～午前11時55分
2. 場 所 登米市役所迫庁舎 第2委員会室
3. 事 件 （1）6月定期議会中における調査事項について
4. 参 加 者 委員長 八木 しみ子、副委員長 工藤 淳子、  
委 員 岩渕 正弘、佐藤 千賀子、日下 俊、伊藤 吉浩、中澤 宏、  
浅田 修、沼倉 利光  
事務局 主査 三浦 正弘
5. 概 要

### （1）6月定期議会中における調査事項について

6月定期議会の所管事務調査について、下記のとおり決定した。

#### 【平成29年6月28日（水）】

<教育委員会> 本会議終了後

（1）6月定期議会所管議案及び補正予算について

<委員のみ> 上記終了後

（2）就学援助の拡充と運用の見直しを求める陳情について

#### 【平成29年6月29日（木）】

<医療局> 10:00 ～

（1）6月定期議会所管議案及び補正予算について

（2）平成29年度所管事務調査について

<市民生活部> 13:00 ～

（3）6月定期議会所管議案及び補正予算について

（4）平成29年度所管事務調査について

#### 【平成29年7月4日（火）】

（1）市内現地調査

<教育委員会> 10:00 ～

① パークゴルフ場建設予定地

② 長沼ボート場クラブハウス建設予定地

<福祉事務所> 13:30 ～

③ （仮称）登米こども園

④ （仮称）東佐沼こども園

⑤ 迫児童館

⑥ （仮称）佐沼こども園

<医療局> 15:30 ～

⑦ 登米市民病院

## 教育民生常任委員会報告書（要点記録）

1. 期 間 平成 29 年 6 月 28 日（水） 午後 1 時 53 分 ～ 午後 4 時 57 分
2. 場 所 登米市役所迫庁舎 第 1 委員会室
3. 事 件

### 【医療局】

- 1) 6 月定期議会所管議案及び補正予算について

### 【委員のみ】

- 2) 就学援助の拡充と運用の見直しを求める陳情について

4. 参 加 者 委員長 八木 しみ子、副委員長 工藤 淳子、  
委 員 岩渕 正弘、佐藤 千賀子、日下 俊、伊藤 吉浩、中澤 宏  
浅田 修、沼倉 利光

（教育委員会）教育長 佐藤信男、部長 大柳 晃、  
次長兼教育総務課長 佐藤 豊、学校教育管理監 伊藤 浩、  
教育企画室室長 岩渕 公一、学校教育課課長 三浦 徳美、  
生涯学習課課長 佐藤 嘉浩、文化財文化振興室室長 片岡 鉄郎  
教育総務課課長補佐 小野寺 和伸

（事務局） 主査 三浦 正弘

5. 概 要（別紙のとおり）
6. 所 見（別紙のとおり）

（別紙）

### （1）6 月定期議会所管議案及び補正予算について

#### ○概 要

教育委員会部局における 6 月定期議会上程議案及び平成 28 年度登米市一般会計予算における繰越明許費について調査した。

#### 議案第 51 号 「財産の取得について」

東部東和学校給食センターの食器・食缶洗浄機の購入  
契約 株式会社 スエナガ 金額 2,100 万円

平成 8 年から使用しており、経年劣化が激しいことや昨年度の施設整備点検において、一部不備の指摘があり、安全安心な給食の提供をするために購入する。



議案第 52 号 「財産の取得について」

東和町域小中学校教育用コンピュータ機器の購入  
契約 株式会社 川内事務機 金額 4,892 万円

議案第 53 号 「財産の取得について」

南方町域小中学校教育用コンピュータ機器の購入  
契約 株式会社 アシストビジネス 金額 4,239 万円

議案第 54 号 「財産の取得について」

津山町域小中学校教育用コンピュータ機器の購入  
契約 株式会社 カワウチ 金額 3,688 万円

教育用コンピュータ機器については、教師用 PC やタブレット端末だけではなく、管理サーバーやネットワーク機器等も含んでいる。

報告第 12 号 「繰越明許費繰越計算書について」

教育部局における平成 28 年度からの繰越事業として、登米懐古館整備事業やパークゴルフ場整備など 5 件の総計 1 億 9,075 万円となった。

## ○ 所 見

登米懐古館は今までの展示品に新たに展示品を追加して、魅力あるものにする努力は感じられる。しかし、登米市にとって、登米懐古館、登米市歴史博物館、南方歴史民族資料館と 3 施設があり、運用が分かりづらいものとなっているので、十分に検討し、混乱が生じないように留意して欲しい。

パークゴルフ場は、愛好者より完成が期待されている施設である。市内外には、素晴らしいコースがある。本市の設計にあたっては、プレイヤーの意見を十分に反映した、素晴らしいコースの完成を期待する。

## (2) 陳情書について

5 月 31 日に提出のあった「就学援助の拡充と運用の見直しを求める陳情書について」を協議した。

[団体名]

民主教育をすすめる宮城の会

[概要]

行事参加等の前払いや入学年度前の援助や就学援助基準額の引き上げ等、就学援助費の拡充と運用の見直しを求めるもの

[協議結果]

資料に基づき陳情の願意を確認し、陳情書を採択すべきかの協議を行った結果、追加で調査を行うこととした。

## 教育民生常任委員会報告書（要点記録）

1. 期 間 平成 29 年 6 月 29 日（水） 午前 10 時 00 分 ～ 午後 3 時 38 分
2. 場 所 登米市役所迫庁舎 第 2 委員会室
3. 事 件

### 【医療局】

- (1) 6 月定期議会所管議案及び補正予算について
- (2) 平成 29 年度主要事業調査について

### 【総務部・市民生活部・建設部】

- (3) 6 月定期議会所管議案及び補正予算について
- (4) 平成 29 年度主要事業調査について

4. 参加者 委員長 八木 しみ子、副委員長 工藤 淳子、  
委員 岩渕 正弘、佐藤 千賀子、日下 俊、伊藤 吉浩、  
中澤 宏、浅田 修、沼倉 利光

(医療局) 病院事業管理者 大内 憲明、

医療局次長兼経営管理部長 大森 國弘、

(経営管理部) 次長兼登米市民病院事務局長 千葉 勝範

総務課長兼登米市民病院事務局次長 千葉 裕樹

総務課副参事兼課長補佐 武田 康博

企画課長兼登米市民病院事務局次長 阿部 桂一

企画課長補佐兼企画係長 白岩 登世司

企画課財政係長 小野寺 義和

医事課長兼登米市民病院事務局次長 照 井 正 樹

米谷病院事務局事務長兼上沼診療所事務局事務長 阿部 裕

豊里病院事務局事務長兼豊里老人保健施設事務局事務長兼津山診療所

事務局事務長兼登米市訪問看護ステーション事務局事務長 高橋 孝規

登米診療所事務局事務長兼よねやま診療所事務局事務長 畠山 知之

(市民生活部) 部長 新井 誠志、理事兼環境事業所長 千葉 祐宏、

次長兼少子化対策推進監 佐藤 浩、次長兼福祉事務所長 加藤 均

市民生活課長 金澤 正浩、環境課長 佐藤 幸子、

クリーンセンター所長兼衛生センター所長 末永 隆、

健康推進課長 佐々木 秀美、国保年金課長 幡江 健樹、

生活福祉課長 田村 啓峻、長寿介護課長 永浦 広巳、

子育て支援課長 鈴木 文男、市民生活課長補佐 高橋 正博

(総務部) 次長兼税務課長 伊藤 秀樹

(建設部) 営繕課長 小野寺 友生

(事務局) 主査 三浦 正弘

5. 概要（別紙のとおり）

6. 所見（別紙のとおり）

(別紙)

## (1) 6月定期議会所管議案及び補正予算について (医療局)

### ○概要

医療局における6月補正補正予算の内容について調査した。

津山診療所の再開に伴い、外来収益(920人)等や医師看護師報酬及び薬品費・消耗品費等の予算並びに東北医科薬科大学と市民病院等が連携し、特定行為に係る看護師(NP:ナースプラクティショナー)を活用した、効果的な地域在宅医療の支援システムを確立していくための予算。

収入 376万円 - 支出 1,995万円 = 収支計 △1,618万円

その他、津山診療所の貯蔵品にあてるため、たな卸資産購入限度額を160万円増額。

## (2) 平成29年度主要事業について (医療局)

### ○概要

委員会構成の変更により、平成29年度医療局所管主要事業等の概要について説明を受けた。

- ・登米市民病院では、地下非常用発電機設備改修を行う。(1,657万円)
  - ・米谷病院では、平成26年より行っている整備事業において、本年は、引き続き病院本体の建設工事を進める。(2億2,210万円)
  - ・豊里病院では、平成28年度において設計業務を行っている空調施設の改修を行う。(1億470万円)
  - ・米山診療所では、屋上防水改修など施設改修と検査システムの更新を行う。(1,442万円)
  - ・豊里老人保健施設では、施設の改修や電動ベットなどの備品購入を行う。(2,275万円)
- その他、東北医科薬科医学部実習生の受入や東北大学寄付講座の設置に向けての協議などを行っていく。

### ○ 所 見

津山診療所の再開は、地域のかかりつけ医として、重要である。

4、5月は、週一回の診療であったが、6月以降は、週二回となり、地域の患者にとっては、とても安心できるものである。

また、高齢化がますます進む中、地域包括ケア体制の確立が求められており、訪問介護体制の充実のためにも、医師の判断を待たずに特定の医療行為を行うことが出来る「特定看護師」は、医師にとっては負担軽減につながることから、その育成・確保に向けた取り組みを進められたい。

さらには、東北大学寄附講座の設置については、その役割や意義など、将来の病院づくりにつながる未来像を示すべきである。

### (3) 6月定期議会所管議案及び補正予算について（市民生活部）

#### ○概要

市民生活部所管の6月定期議会上程議案について調査した。

議案第49号 登米市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

地方税法の改正と薬価改定により医療費が減少したため、決算剰余金が多く見込まれること、また、平成27年度の交付金清算金による収入増などを財源に被保険者の負担軽減を図るため、国民健康保険の税率の引き下げを行う。

医療分の所得割を現行の8%から7%へ引き下げ、さらには、資産割を9%から6.5%へ引き下げる。このことにより、国民健康保険等別会計において、1億5,280万円の減額とした。

### (4) 平成29年度主要事業について（市民生活部）

#### ○概要

委員会構成の変更により、平成29年度市民生活部所管主要事業等の概要について説明を受けた。

#### ◆ 環境事業

- ・新クリーンセンター整備事業

平成31年度中の供用開始予定の新クリーンセンター整備（6億5,246万円）

#### ◆ 健康づくり事業

- ・地域医療・救急医療事業

休日における急病診療の委託事業や石巻市夜間急患センター・大崎市民病院などの運営費負担金等（9,268万円）

- ・健康診査事業

特定健診やがん検診・歯科検診等の各種健診に要する費用（3億4,111万円）

#### ◆ 福祉事業

- ・自立支援給付費支給事業

障がい者及び障がい児が日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障がい福祉サービスに係る給付、地域生活支援事業、その他の支援事業（13億9,440万円）

- ・生活保護費

生活保護法による各種扶助費（9億1,878万円）

#### ◆ 子育て支援

- ・こども園施設整備事業

教育と保育の一体的な提供と保護者の支援や待機児童を解消するため、認定こども園の整備推進事業。（3施設 計4億3,220万円）

- ・迫児童館整備事業

迫児童館のほか、2施設を借用して行っている児童クラブを一体的に行う施設を整備し、子どもたちの健全な育成を図るとともに、効率的な運営を図るために、新たな迫児童館を整備する事業。（3億4,938万円）

- ・ 児童手当給付事業  
0才から15歳までの養育している父母等に支給する。(11億9,231万円)
  - ・ 施設型給付事業  
保育が必要な児童に対し、保育を実施した市立認可保育所等に対し、保育に要する経費として支給する。(13億3,336万円)
- ◆ 窓口サービス
- ・ 通知カード・個人番号カード関連事務事業  
個人番号の発行管理及び個人番号カードの申請と交付管理に要する経費  
(1,599万円)

### ○ 所 見

既存のクリーンセンターは、建設してから27年以上経過し設備機器の劣化が著しいことから新たに整備するものである。平成31年度の完成を目指し、安全かつ確実な取り組みを進めていただきたい。

また、認定子ども園整備事業は、教育と保育の一体的な提供や待機児童解消を図ることが目的だが、実施に向けては、保育士の確保や幼稚園と保育園の連携など慎重に進められたい。

## 教育民生常任委員会報告書（要点記録）

1. 期 間 平成 29 年 7 月 4 日（火） 午前 10 時 00 分～午後 4 時 40 分
2. 場 所 市内現地
3. 事 件

（1）市内現地調査

### 【教育委員会】

- ① パークゴルフ場建設予定地
- ② 長沼ボート場クラブハウス建設予定地

### 【市民生活部】

- ③（仮称）登米こども園 建設予定地
- ④（仮称）東佐沼こども園建設予定地
- ⑤ 迫児童館建設予定地
- ⑥（仮称）佐沼こども園建設予定地

### 【医療局】

- ⑦ 登米市民病院

4. 参加者 委員長 八木 しみ子、副委員長 工藤 淳子、  
委員 岩渕 正弘、佐藤 千賀子、日下 俊、伊藤 吉浩、中澤 宏  
浅田 修、沼倉 利光

（教育委員会） 教育長 佐藤信男、部長 大柳 晃、次長兼教育総務課長 佐藤 豊、  
教育総務課課長補佐 小野寺 和伸、生涯学習課課長 佐藤 嘉浩、  
課長補佐兼スポーツ振興係長 島 靖幸

（市民生活部） 部長 新井 誠志、理事兼環境事業所長 千葉 祐宏、  
次長兼少子化対策推進監 佐藤 浩、次長兼福祉事務所長 加藤 均  
市民生活部課長 金澤 正浩、課長補佐 高橋 正博、  
子育て支援課長 鈴木 文男、課長補佐兼児童福祉係長 名生 忠司  
子育て支援係長 高倉 徹

（医 療 局） 病院事業管理者 大内 憲明、  
医療局長兼登米市民病院長 松本 宏  
医療局次長兼経営管理部長 大森 國弘、  
経営管理部次長兼登米市民病院事務局長 千葉 勝範、  
総務課課長兼登米市民病院事務局次長 千葉 裕樹  
総務課副参事兼課長補佐 武田 康博、用度係長 大石 晃也、  
企画課長兼登米市民病院事務局次長 阿部 桂一、  
医事課長兼登米市民病院事務局次長 照井 正樹  
登米市民病院看護部長 高橋 直子

（事 務 局） 主査 三浦 正弘

5. 概 要（別紙のとおり）
6. 所 見（別紙のとおり）

(別紙)

(1) 市内現地調査

○概要

石越パークゴルフ場及び長沼ボート場クラブハウス建設予定地の現地調査。

◆ チャチャワールド石越内に建設するパークゴルフ場予定地を視察。



【正面玄関】



【増築予定のレストラン】



【アジサイ園入口】



【第1・2コース建設予定地】



【第3・4ホール建設予定地】



【第5・6コース建設予定地】



◆ 迫ふるさと交流館を取り壊し、長沼ボート場クラブハウスに建替え予定の現地調査



【迫ふるさと交流館 正面玄関側】



【正面入り口】



【付属施設の漕艇庫】



【大広間】



【食堂】



【部屋からの眺望】



## ○ 所 見

パークゴルフ場建設については、公式大会を開催することが出来る、6コース 54 ホールの認定パークゴルフ場を高森公園に整備するもので、高低差のある地形を巧みに取り込んでいるが、丘の上からの公園全体を眺める景観など楽しむことが出来るよう、それぞれのコース作りに工夫を検討されたい。

また、パークゴルフ場は、チャチャワールド内に整備されるため、高森公園の所管である産業経済部との連携をより一層強められたい。

長沼ボート場は、大会開催時に多くの選手が利用できるような施設が整備されていないため、今回、長沼フートピア公園内の迫ふるさと交流館を解体し、新たにクラブハウスとして整備するものである。

この長沼ボート場を生かしていく環境整備の一つとして、選手や大会関係者をサポートできるような施設となるよう、十分検討されたい。

認定こども園及び迫児童館の建設予定地の現地調査。

- ◆ 教育と保育の一体的な提供、保護者の支援や待機児童の解消を図るために整備をする認定こども園の予定地を現地視察。



【登米こども園の建設現場】



【東佐沼こども園の整備予定地】



【佐沼こども園の工事現場】

- ◆ 迫児童館のほか2施設で分散している児童クラブを一体的に行う施設として新たな児童館施設の整備をする予定地の現地を視察。



【隣接する佐沼小学校】



【現在の迫児童館】

## ○ 所 見

教育と保育の一体的な提供や待機児童の解消を図るため、3つの認定こども園を来年度までに整備する。登米こども園は、登米保育所（公立）と北上保育園（私立）を、佐沼こども園は、中江保育所の一部と佐沼幼稚園を、東佐沼こども園は、中江保育所の一部と東佐沼幼稚園を再編統合するもの。

建設場所は、どこも交通量の多い場所なので、安全な保育環境が確保されるよう十分検討されたい。また、その進め方においても、事業者や地域の意見や要望などを十分に聞き、意見が反映されるよう配慮願いたい。

さらには、公立と私立や保育園と幼稚園が一体として運営される新たな取り組みなので、準備を怠らないよう望むものである。

迫児童館においては、構造変更等の見直しを行い、事業費の縮減をしたが、妥当であるのか更なる検討が必要ではないか。また、他の地域における児童館のあり方も含めて、市として児童館の全体像を示すべきである。



登米市民病院の現地調査。

◆ 登米市民病院の現状を確認するため、現地調査したもの。



【登米市民病院】



【市民病院前の外便所】



【隣接する栄養管理室と霊安室】



【地下1階案内平面図】



【調理室】



【洗浄機】



【防虫駆除の薬品】



【配膳室】



【本館と南館の渡り廊下の段差】



【院内保育所の開設予定場所(南館4階)】

## ○ 所 見

市民病院の給食室は地下一階の暗い場所にあり、さらに霊安室に隣接している。食器を洗浄する際には、熱気が部屋にこもるが、換気扇は小さなものしかなく、窓を開けて作業をしている状況である。このような衛生管理や労働環境で、大丈夫なのか不安である。

病院給食は、治療の一つととらえて、病院給食の提供のあり方を改めて考えることが重要ではないか。

## 教育民生常任委員会報告書（要点記録）

1. 期 間 平成 29 年 8 月 18 日（火） 午後 1 時 00 分～午後 4 時 28 分
2. 場 所 登米市役所迫庁舎 第 2 委員会室
3. 事 件

### 【教育委員会】

- （1） 請願の件について
- （2） いじめ防止対策について

### 【医療局】

- （3） 登米市民病院の非常用発電機の現状と課題について  
～ 災害時の対応は大丈夫か ～

4. 参 加 者 委員長 八木 しみ子、副委員長 工藤 淳子、  
委 員 岩渕 正弘、佐藤 千賀子、日下 俊、伊藤 吉浩、中澤 宏  
浅田 修、沼倉 利光

（教育委員会） 部長 大柳 晃、次長兼教育総務課長 佐藤 豊、  
学校教育管理監 伊藤 浩、教育企画室室長 岩渕 公一、  
学校教育課課長 三浦 徳美、生き行き学校支援室長 菅原 栄夫  
生涯学習課課長 佐藤 嘉浩、文化財文化振興室長 片岡 鉄郎  
教育総務課課長補佐 小野寺 和伸

（医療局） 病院事業管理者 大内 憲明、

医療局次長兼経営管理部長 大森 國弘、

（経営管理部） 次長兼登米市民病院事務局長 千葉 勝範

総務課長兼登米市民病院事務局次長 千葉 裕樹

総務課副参事兼課長補佐 武田 康博

総務課用度係長 大石 晃也

企画課長兼登米市民病院事務局次長 阿部 桂一

医事課長兼登米市民病院事務局次長 照井 正樹

米谷病院事務局事務長兼上沼診療所事務局事務長 阿部 裕

豊里病院事務局事務長兼豊里老人保健施設事務局事務長兼津山診療所事務局

事務長兼登米市訪問看護ステーション事務局事務長 高橋 孝規

登米診療所事務局事務長兼よねやま診療所事務局事務長 畠山 知之

（事務局） 主査 三浦 正弘

5. 概 要（別紙のとおり）

6. 所 見（別紙のとおり）

(別紙)

## (1) 請願の件について

### ○概要

- ・「地域体育施設の改修をもとめる請願について」

平成22年12月16日に本会議で採択をしたが、平成23年3月11日に東日本大震災が起これ、その後、グラウンドを中学校の仮設校舎敷地として使用していたことや文教施設の復旧事業を優先していたために、未処理案件となっていた。

さらには、その後の公共施設等総合施設管理計画(平成28年12月)が策定され、全市的な公共施設のあり方を見直しすることとなった。

そのため、本請願に対する対応としては、公共施設等総合施設管理計画を基にして、全市的なグラウンドの利用状況の調査や今後の市の施設等のあり方を見直していくために、照明の整備を行わないこととした。

- ・「民俗芸能の保存と活用に関する請願」

平成23年4月12日に本会議で採択され、登米市文化協会が事業主体となり、平成24年3月から平成26年2月には、「伝統・伝承芸能記録保存」の文化庁の事業よりの映像や冊子、ワークショップの開催等を行っており、平成29年2月には、「上沼加茂流法印神楽」が無形民俗文化財に指定されている。また、指定民俗文化財保持団体(市内38団体)に1,125千円を予算化し、補助金を交付している。

今後は、伝統芸能に触れ合える機会を増やしたり、「地域伝統文化振興方針」等を策定したり、さらに、関係部署・団体と協議しながら市民が伝統文化への関心を高める取り組みを進めることで、請願への対応とする。

## (2) いじめ防止対策について

### ○概要

国では、平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が施行されたことに伴い、登米市では、平成26年3月に「登米市いじめ防止基本方針」を策定した。

この「いじめ防止基本方針」では、教育委員会において、「いじめ問題対策連絡協議会」や「いじめ防止対策調査委員会」の開催、5月と10月に市全体での小中学校へのアンケート調査を行い、さらには、小中学校において「学校いじめ防止基本方針」の作成や「いじめ防止対策委員会」を開催することとしており、さらには、いじめ不登校対策担当の設置や独自で毎月のアンケートの実施している。

なお、いじめ防止対策調査委員会は、平成28年度は4回開催されたが、そのうち3回は重大事態として取り扱っている。

## ○ 所 見

石越総合運動公園の多目的グラウンドに夜間照明設置を求めた、「地域体育施設の改修を求める請願」については、特定非営利活動法人いしこし ENOJY クラブほか3団体、請願に賛同する1,036名が署名し提出され、平成22年12月16日の議会で採択した。

その後市において、公共施設等総合計画を策定し、その方針では、「石越総合運動公園は、地域に均等に分散配置する地域型施設タイプに分類され、今後も維持管理すべき施設」として位置づけられていることから、グラウンド機能の高度化となる照明設備の設置はしない方向で検討することとされた。

しかし、平成29年6月19日の6月定期議会における、一般質問の市長の答弁において、「全市的な施設整備のあり方や優先度などを考慮し、総合的に判断しながら取り組んでまいります。」と述べていることから、今後の活動状況や利用の拡大など、状況に応じて適切な設置を望むものである。

いじめによる自殺や不登校が全国的な問題となっていることも踏まえ、教育委員会や各学校でいじめ防止対策を確実に実行し、「いじめ根絶」に向けて、今後も努力を続けられたい。



### (3) 登米市民病院の非常用発電機の現状と課題について ～ 災害時の対応は大丈夫か ～

#### ○ 概要

登米市民病院では、地下一階に診療情報管理室・薬品倉庫・調理場等があり、さらに地下二階には、非常用自家発電機・高圧受電設備・受水槽が設置されている。排水設備としては、雨水・湧水・雑排水を処理するための排水ポンプが28台設置されている。しかし、いずれも地下2階に設置されており、これらは、平成31年度には、実施計画に基づき、全ポンプ更新予定である。さらに、このほかにも毎月の維持経費や設備の点検費用などの経費も掛かっている。

これらの主な対策としては、登米市のハザードマップを用い、浸水想定高の1mで、浸水防止板や土のうの準備などを行っているが、これは、応急対策であり、根本的な対策とはならない。

そこで、重要設備を地上へ設置するとなると、概算で6億程度と見込んでいるが、この中には、調理場や薬品倉庫及びカルテ等の保管場所についての移動分は含んでいない。

今後は、こういった設備関係、施設関係を含めた総合的に判断して、病院建設の是非を検討していく。

#### ○ 所見

最近の台風の巨大化、ゲリラ豪雨、線状降水帯による記録的な豪雨等により日本各地で甚大な被害に見舞われている。登米市は運よく災害を免れているが、豪雨等による水害対策を考えなければならない。

現在、登米市民病院には、地下1階に診療情報管理室・薬品倉庫・給食調理場等があり、さらに、地下2階には、キュービクル式高圧受電設備・非常用自家発電機・ボイラー・受水槽等が配置されており、もし、建物が水没した場合、すべての設備機能が喪失し、患者の命を守ることができなくなる事は明白である。

現在の水害対策としては、登米市ハザードマップを用いて浸水想定高1mで、浸水防止板や土のうを準備しているが、一時的な応急対策であり根本的な対策とはなっていない。

このことから、極めて致命的な構造となっている病院施設の構造や設備関係の耐用年数等を総合的に判断し、新病院建設のための調査を早急に進めるべきと考える。